

# まなびの森



廿日市市立吉和小・中学校 校長通信

【第4号】R4. 7.20

校長 戸崎志乃婦

## 言葉に思いを込めて伝え合おう

「おぎゃあ。」と、この世に生れてからこの方、人はコミュニケーションをとりながら大きくなってきました。人の赤ちゃんは、周りの人の世話なしでは生きていけませんから、音声を発して、親や近くの大人とつながろうとします。やがて、言葉を獲得しながら、やりとりを学び、欲求を通したり、我慢をしたりと、コミュニケーションを通して、物



事を理解します。保育園や小中学校という集団に属してからは、自分の生まれ育った環境とは違う子ども達や年の離れた大人である先生達と出会い、違う価値観に出会いながら、「言葉」を通して思いや考え、気持ち、新しいとらえ方を理解しようとしています。私達の日常は、コミュニケーションを介して成り立っています。人はたくさんのことを「言葉」から学んでいます。



1学期約70日間。約400時間の授業とその他の共通の時間や空間。たくさんを共有しながらも、いろいろなさかきもあり、反省したり、反目しあったり、協力したり、励ましあったり…どのシーンでも「言葉」を通して、思いを伝え合ってきました。「言葉」はただの伝達手段というよりは、その人なりの思いや価値観が詰まっていると思うのです。学校の中で話をするときに相手がどんな思いをもって話そうとしているか、まず私達からしっかりと受け止められるようにしていきたいと思います。



本年度の研究主題を「人とつながり、対話から学ぶ」としています。授業の中で、なるべくたくさんの対話の場面を仕組んできました。人はそれぞれ



違うから、ぶつかることもあるけれど、人はそれぞれ違うからこそ、様々なアイデアが出ます。それぞれの気付きをつなぎ合わせ、協力することでたくさんの課題解決をしてきました。学びは、



学校の外にも向かっています。外部の方々から、お話を伺い、そのことについて質問し、学んだことを「言葉」を使ってまとめ、発信しています。仕事についてお話を聞くときも、「言葉」に込められている仕事への思いや大切な価値観を感じ取っていることでしょう。そして、そこからの学びを通して自分というものを創り上げていっています。人は「言葉」を通して成長します。だからこそ、自分の思いを「言葉」に込めて自信をもって伝えられるように、相手の思いを大切に聴きながら「言葉」を通して受け止められるように…引き続き今後の指導につなげていきます。

今年度は、小・中でたった1回ずつでしたが、水泳指導が復活しました。民生児童委員さんにも、子ども達の様子を見ていただくことができました。引き続きコロナ禍においてもできることを見極めながら、子ども達の力を伸ばしていきたいと思います。



2学期もがんばりましょう！